

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	情報リテラシー1 (Information Literacy 1)		
ナンバリングコード	A10301	大分類 / 難易度 科目分野	教養基礎科目 / 基礎レベル コミュニケーション科目
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 前期・後期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	A014348	クラス名	経営経済学部
担当教員名	本村 裕之		
履修上の注意、履修条件	実習を伴うので、欠席・遅刻はしないように心掛けましょう。 履修前試験不合格者は本授業を履修できませんので、あらかじめ、タイピングの練習、、Word、Excelの基本的な操作をマスターしておきましょう。		
教科書	30時間でマスター Office2016: Windows10対応、実教出版、ISBN-13: 978-4407340181 (更新の可能性あり)		
参考文献及び指定図書	別途指示します。		
関連科目	情報リテラシー2		

○基本情報	
授業の目的	インターネットやマルチメディアが普及し、企業のみならず、我々の日常生活のすみずみまでコンピュータが普及しています。さらに、社会全般にわたる情報化の波は、人間が従来行ってきた仕事をコンピュータに置き換えるだけでなく、情報通信ネットワークによる人間関係をよりグローバル化、高速化するなど、人間社会そのものを大きく変容させています。このような意味においても、コンピュータを道具として情報を収集・処理・発信する能力は、現代社会に生きるすべての人々に共通に求められる教養ともいえます。本講義は、そのような情報リテラシー能力の育成を主な目的とします。 本科目は、「数理・データサイエンス・AI 関連科目」である。
授業の概要	本科目では、社会人として必要とされるインターネットを用いた情報収集や就職活動における使い方、コミュニケーション手段としてのワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトウェアの活用法などを学びますが、ソフトウェアの操作だけでなく、それらを使って何ができるかを考えながら学習するよう心がけましょう。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「演習等形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「複数クラス方式」 (3) アクティブ・ラーニング 「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	積極的に授業に参加し、情報を収集・処理・発信しようとしている。		5点	10点
【知識・理解】	ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトの活用法など、社会で通常使う知識、能力を有している。また、情報リテラシー能力を身につけている。	30点		
【技能・表現・コミュニケーション】	ワープロソフトや表計算ソフトを使って、発展的な表現ができる。メールを使ったコミュニケーション能力を備えている。	50点	5点	
【思考・判断・創造】				

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
Sレベル: ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる高度な計算ができることに加え、情報リテラシーに関する高い能力を見つけ、社会人として、情報収集やメールのやりとりなどがきちんとできている。 Aレベル: 情報リテラシーの能力を身につけ、ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる高度な計算ができる。 Bレベル: 情報リテラシーの能力を身につけ、ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる活用法をしっかりと理解している。 Cレベル: 情報リテラシーの能力を身につけ、ワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる基礎的な内容を理解している。

○その他
その他、受講における注意事項  レポートは、授業時に指示される注意事項に従って締切日まで提出してください。すべて提出した場合は、評価の対象とします。  欠席・遅刻はしないように心掛けましょう。止むを得ず欠席・遅刻をする場合は、事前にメールなどを通して連絡してください。また、研究室に寄り欠席した日の資料を受け取ってください。  授業に欠席や遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。毎回の講義で課題が課されます。したがって、毎回出席していないと、課題も提出できませんので注意してください。

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	情報リテラシー1 (Information Literacy 1) 本村 裕之	授業コード	A014348
<b>学修内容</b>				
<b>1. オリエンテーション</b> 本学のネットワーク環境、PC環境、利用方法に関するオリエンテーションを行います。				
予習	タイピング10分で400文字程度入力できるよう練習しておきましょう。			約4時間
復習				
<b>2. クラス分け試験</b> コンピュータの利用状況は履修生によって異なるので、クラス分け試験を行います。				
予習	高校までに修得した文書作成、表計算ソフトの使い方を復習しておきましょう			約4時間
復習				
<b>3. インターネットの世界、ウェブの利用、メールの利用 テキスト pp.30-31</b> インターネットの状況、情報リテラシーについて学びます。特に昨今、SNSなどの不適切な投稿が、社会問題となっています。本の出来心で行った行為が、人生をダメになってしまうほど、深刻な問題です。自分事としてしっかり理解して下さい。				
予習	テキストpp.30-31をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	担当教員にメールを送ることができる			約2時間
<b>4. 文書作成ソフトの使い方 ページ設定 テキスト pp.48-49</b> ページの設定、フォント、文字の入力について復習します。				
予習	テキスト pp.48-49をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	ページ設定がきちんとできるようになる			約2時間
<b>5. 文書作成ソフトの使い方 ビジネス文書の作成 テキスト pp.50-70</b> ビジネス文書の作成方法を学びます				
予習	テキストpp.50-70をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	ビジネス文書を書くことができるようになる			約2時間
<b>6. 文書作成ソフトの使い方 ワードアート テキスト pp.65-70</b> 図表を入れると、インパクトのある文書を作成することができます。ワードアートなどについて学びます。				
予習	テキストpp.65-70をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	ワードアートやレイヤーについて理解する			約2時間
<b>7. 文書作成ソフトの使い方 表の作成 テキスト pp.70-95</b> 図表を入れると、インパクトのある文書を作成することができます。表の作成について学びます。				
予習	テキストpp.70-95をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	表が作成できるようになる。			約2時間
<b>8. 表計算ソフトの使い方 数式 テキスト pp.96-111</b> 表計算ソフトの基本的な使い方を学びます。				
予習	テキストpp.96-111をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	数式の入力ができるようになる			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	情報リテラシー1 (Information Literacy 1) 本村 裕之	授業コード	A014348
<b>学修内容</b>				
<b>9. 表計算ソフトの使い方 関数 テキスト pp.112-128</b> 関数の使い方について学びます。				
予習	テキストpp.112-128をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	関数を使って計算することができる			約2時間
<b>10. 表計算ソフトの使い方 相対参照・絶対参照、罫線、行の挿入 テキスト pp.128-141</b> 絶対参照と相対参照の違いについて学びます				
予習	テキストpp.128-141をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	相対参照・絶対参照を使って計算することができる			約2時間
<b>11. 表計算ソフトの使い方 グラフの作成 テキスト pp.142-151</b> グラフを単純に描いても、相手に理解してもらえないことがあります。相手に正しく伝わるグラフの描き方について学びます。				
予習	テキストpp.142-151をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	自分の主張が正しく伝わるグラフを描けるようになる			約2時間
<b>12. 表計算ソフトの使い方 条件分岐 テキスト pp.152-160</b> 条件に応じて異なる計算や表示をしたいことがあります。条件分岐の使い方を学ぶことで、より高度な表現方法を学びます。				
予習	テキストpp.152-160 をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	条件分岐を使って計算することができる			約2時間
<b>13. 表計算ソフトの使い方 検索関数 テキスト pp.161-167</b> データベースにおいて、検索は非常に重要なツールです。関数を使った検索方法について学びます				
予習	テキストpp.161-167 をあらかじめ読んでおく			約2時間
復習	検索関数を使った計算をすることができる			約2時間
<b>14. 演習1</b> これまでの内容の演習を行い適宜解説を行います。				
予習	これまで習ったところを復習しておくこと			約2時間
復習	演習で間違えたところを復習しておくこと			約2時間
<b>15. 演習2</b> これまでの内容の演習を行い適宜解説を行います。				
予習	これまで習ったところを復習しておくこと			約2時間
復習	演習で間違えたところを復習しておくこと			約2時間
<b>16. 定期試験</b> 定期試験を実施します。				
予習				
復習				